

問 し尿券の不正について

答 平成20年9月5日に
捜査依頼



伊藤 一郎

問

今年6月の議会で、市長は「警察に届けている」と発言。しかし、捜査依頼書は今年の9月5日です。これは虚偽の答弁です。平成18年6月し尿券の不正が発覚した時に、内容の公開を怠り隠蔽したことが重大な問題です。

市長

平成18年6月に大量の不明券が出た時、いつ、どこで、誰が、どうしたのかの確認が出来なかったため、口答で依頼するしかなかった。今までの経過を、捜査依頼書として警察に提出しました。

福祉部長

平成12年にし尿券は、10枚シートで百万枚印刷し、残数については、受払簿が未整備です。

兵庫県産木材供給センターについて

問

市長は、山にお金が返らないのであれば支援は必要

市長

補助事業を活用しながら、何とか償当たり50万円を計画しています。県に再三補助申請をしましたが、財政難で市の特例債での対応となりました。市にとつて、林業の再生は大切です。

なと言われている。どのようにしてお金を返すのですか。何とか成功している群馬県藤岡市の県産木材センターは、造成費が国55%、県45%で造成しています。しかし、宍粟市は1億の造成費を国と市が折半です。県主体の事業は県が負担すべきです。

被害想定額（販売枚数と回収枚数の差）

年度	不正枚数（枚）	被害金額（円）
2003年	21,176	4,446,960
2004年	17,740	3,725,400
2005年（合併時）	37,942	7,967,820
計	76,858	16,140,180

被害金額は枚数に1枚210円をかけたもの

問 財政状況の改善見通しは

答 計画通り改善を
達成できます



岸本 義明

問

財政計画では十年先の平成28年度には起債残高が602億円となり17年度より172億円の削減となっています。公債費比率も目標の18%を切る見通しです。市民はこの見通しを見て本当に安心していいのでしょうか。

市長

現在実施している大規模事業が終われば大きな起債もなくなり、行政改革を堅持することにより計画通りの数字を達成できると確信しています。

問

行政改革の進み具合に市長は満足していますか。も

問

つとスピードを上げ、大胆な改革をしないと市民には改革が進んでいないとは思えないのではないですか。

市長

内部改革を優先し、職員の削減や給与改定等、一定の成果を挙げ計画通りに進んでいます。一層大胆にスピードを上げて取り組みます。

問

教育に関する緊急の大きな課題は何ですか。刊行された「長期構想」では学力向上策や宍粟の特色ある教育という視点が欠けているのではないですか。

市長・教育長

学校規模の適正化・地域総がかりの教育・小中一貫教育・地域の担い手育成に向けた取り組みが課題であり、学力向上策や特色ある教育は長期構想を実施していく中で実現していきたいと考えています。



建設中の新庁舎